



JAあそだより

平成24年1月

謹賀新年



新雪におおわれた阿蘇山



2012

新年

VOL.60

■今号16ページ主な内容

- 新年のごあいさつ 代表理事組合長 工藤 保雄
- JA県青壮年部大会、JA阿蘇女性部フォーラム開催
- 各生産部会・青壮年部・女性部の動き
- 「ちやぐりん感想文」ほか

▲阿蘇農業協同組合

本所 〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地387-5
TEL 0967-22-6111/FAX 0967-23-1088

組合員、地域住民に期待され、 地域で選ばれる組織を 目指し、積極的な事業活動を図ります



阿蘇農業協同組合
代表理事組合長 工藤 保雄

新年、明けましておめでとうございます。

組合員の皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、JA事業に対し深いご理解とご支援を賜り、役職員を代表致しまして心よりお礼申し上げます。

昨年6月の役員改選で、新役員25名を含む41名の役員体制をご承認頂き、新しい執行体制で取り組んでいるところであります。

昨年、3月11日に発生した東日本大震災の地震・津波により多数の尊い人命が失われ、更には福島原発事故による放射線の大量放出の影響で甚大な農業を含む経済的被害がもたらされました。そのような中、JA阿蘇は、募金、義援金や生活物資等の支援を実施するとともに、人的支援として2名を現地へ派遣し災害復旧にあたりました。被災された皆さまにはあらためてお見舞い申し上げます。

また、11月にはアジア太平洋経済協力会議(APEC)首脳会議で政府は「TPP(環太平洋連携協定)交渉参加に向け、関係国と協議に入る」との方針を表明しました。例外なき関税撤廃を原則とするTPPへの参加は、日本の農林水産業に壊滅的な影響を及ぼし、食料自給率が13%までに低下すると試算されています。また、農業分野だけの問題ではなく、国民生活に直結する医療や雇用、金融・保険、食料の安全基準など、国民生活にかかわる重要問題であります。JAグループとしては、今後とも交渉参加は断固阻止するという運動の基本を堅持し、各界各層との連携を一層深めながら、国民運動を力強く継続していきます。

このように厳しい社会情勢の中、組合員はもとより地域住民や利用者信頼される農業の展開、JAの体質強化を図るため、改めて協同組合運動の基本的な定義、価値、原則を確認し、理事がそれぞれの地域や組織の意見、実状を集約し、積極的な事業活動を図っていく所存です。

農業・JAを取り巻く環境は大変厳しく、予断を許さない状況が続くと思われませんが、組合員の負託に応えるJAを目指し本年も役職員一丸となって取り組んで参りますので、皆様の更なるご支援とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

年頭にあたりまして、組合員皆様のご健勝とともにご家族の皆様にとって良い1年となりますことを祈念致しまして新年のご挨拶と致します。



「盟友の主張」西村健児さん
「組織活動実績」犬飼忠綱さん
JA阿蘇青壮年部大会で発表



JA熊本県青壮年部大会が10月28日、熊本市の全日空ホテルニューエースカイで開催され、JA阿蘇青壮年部員を含め県内の部員約350人が参加しました。「盟友の主張」では長陽支部の西村健児さんが「感謝の日々」と題し、「組織活動実績」では一の宮支部の犬飼忠綱さんが「盟友参加による環境美化作業での地域貢献継続は力なり」と題し、発表しました。

大会後の懇親会で、県内の腕自慢が集まった「アームレスリング大会」が行われ、長陽支部の藤本和信さんと一の宮支部の市原豪さんが出場しました。

同大会は自立農業経営確立と、豊かな地域社会づくりをめざすために相互研鑽を行い、青壮年部組織のさらなる発展を目的としています。（写真右側は県大会で発表する西村さん（上）と犬飼さん（下））

牧草ロールに思いを込めて
「TPP交渉断固反対！」
青壮年部一の宮・長陽支部



断固反対を訴える一の宮支部の盟友

JA阿蘇青壮年部一の宮支部は11月8日、一の宮中央支所前で牧草ロールに「TPP断固反対!!」をスプレーで書き入れ、敷地内で反対を訴えました。支部長の犬飼忠綱さんは「政府は日本の食を守る責務がある。未来の子供たちへこの国をしつかり残すためにも盟友の気持ちを一つに断固反対し、断固阻止しなくてはならない」と訴えていました。

一方、青壮年部長陽支部（古庄憲明支部長）でも「TPP参加反対」を訴えるため11月28日、南阿蘇村の国道325号沿いに強い思いを書き込んだ牧草ロールを置き、同支部の盟友10人が通行

優勝は高森Bチーム
年金友の会ゲートボール大会

JA阿蘇年金友の会は11月8日、阿蘇市のグラウンドで会員相互の健康増進を図り、親睦と融和を深めることを目的に「第11回親善ゲートボール大会」を開催しました。今回は阿蘇管内から24チーム123人の会員が参加し、各コートでは元気なプレーが行われました。競技の結果は次の通りです。



ロールに思いを込め、反TPP訴える長陽支部の盟友

人や通行車輛に「反対」を訴えました。古庄支部長は「TPPへの参加反対を各組織単位で訴えることで、自分たちの強い思いを多くの人に知ってほしい」と語っていました。

優勝は高森Bチーム、準優勝は小野田チーム（阿蘇町）、3位は南阿蘇村男性チーム。



優勝した高森Bチームの皆さん

銀賞グラウンド・ゴルフ大会
丸山武重さん（波野）が優勝！



JAバンク熊本・年金友の会主催の第13回親善グラウンド・ゴルフ大会が11月17日、パークドーム熊本で開催され、丸山武重さん（阿蘇市波野）がAブロックで27スコアを記録し初優勝を果たしました。この大会ではJA阿蘇代表の43人をはじめ、県内各地の予選を勝ち抜いた選手約500人が参加し熱戦を繰り広げました。

Ⅱ 多彩で充実したプログラムⅡ
JA阿蘇女性部フォーラム
「家の光大会」



オープニングを盛り上げたスコップ三味線の演奏

「第9回JA阿蘇女性部フォーラム」家の光大会」が11月8日、阿蘇いこの村で開かれ、女性部員をはじめJA関係者ら210人が参加しました。開会に先立ち、オープニングセレモニーとして小国郷支部ガラクタ楽団による軽妙でユーモラスなスコップ三味線の演奏と踊りが披露され、会場を一気に盛り上げました。続いて9月に開催した「加工品コンクール」の表彰式もあり、緒方洋子女性部長より最優秀賞の後藤悦子さん(二の宮支部)ら9人に表彰状と記念品が贈られました。



「加工品コンクール」の表彰式



「ちやくりん感想文」の表彰式



徳永常勤監事の講演

りん感想文(本紙10ページ)記載発表では、山田小4年の速藤正士君、中道小4年の園田桃子さん、高森中央小4年の中山さつきさんがそれぞれステージで朗読し、大きな拍手を浴び、緒方部長から表彰状と記念品が贈られました。体験発表では「フレッシュミズの活動を通して」というタイトルで、江入衣美さん(阿蘇町支部)が就農の動機や女性部でのフレッシュミズを立ち上げた活動体験などを語りました。



農を、そして地域社会を支えていきましょう」と力強く述べました。

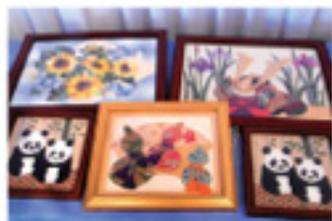
恒例の「ちやく

ぐりんフェスタ」の活動体験をフレッシュミズの工藤寿恵さん(高森支部)がスライドを交えながら発表しました。講演ではJA教育センター所長などを務め、現在JA阿蘇の常勤監事を務める徳永隆紀さんが「元氣・前進 女性活動」今こそ協力の力を発揮しよう」という演題で、これまでの自分自身が仕事を通して学んだ貴重な体験や、今日JAがおかれている状況などユーモアを交えながら語り、協同組合の大切さを話しました。

昼食後は「あそび子スクール」などのスライド、体験発表のほか、毎年恒例のお楽しみ抽選会があり、JA女性の歌を参加者全員で斉唱し、女性部フォーラムの幕を閉じました。



発表や講演に耳を傾ける女性部のみなさん



会場には手芸作品などの展示コーナーも設けられた

「たかな入りオムライス」
最優秀賞に輝く!



阿蘇町女性部加工班「あすか」

NPO法人「ASO田園空間博物館」主催で、阿蘇の特産品を使った料理の出来栄を競う「第6回おかずコンテスト」が10月5日、阿蘇市黒川の道の駅「阿蘇」で開かれ、阿蘇町中央支所女性部加工班「あすか」（永富美津子代表）が出品した「たかな入りオムライス」が最優秀賞に選ばれました。今回のテーマは、阿蘇特産のたかなを使用した料理で、コンテストには個人や団体から47点の料理が出品され、審査には訪れた一般客らも加わり、一品一品試食して行われました。



写真上＝阿蘇町中央支所女性部加工班「あすか」の皆さん
写真下＝「たかな入りオムライス」

100歳弁当コンテストで
女性部小国郷支部の
「ヘルシー弁当」が受賞

「5色を食べて違者がいちばん」をテーマに、「あなたに届ける」JA健康寿命100歳弁当コンテストで、JA阿蘇女性部小国郷支部の料理好きもんグループが出品した「ヘルシーアラフォー弁当」が、がんばったで賞を受賞しました。同コンテストは、JA全中とJA高齢者福祉ネットワーク主催で、JA健康寿命100歳プロジェクトの一環として初めて開催されました。

全国のJAや女性組織などに応募を呼びかけ19県から39作品の応募がありました。

30品目摂取できるようにと作られた小国郷支部のヘルシー弁当には、アスパラのベーコン巻き、ゴーヤの酢の物、キュウリの佃煮、大根の天ぷらなど14種類が入り、地元の採れたて野菜をふんだんに取り入れたヘルシーで豪華な弁当です。

小国郷支部長の梅田泉さんは「今年の活動テーマ「チャレンジ」にちなんで応募しました。試食した方々からは直売所に出してほしいという要望もあり、今後販売に繋げていけるよう頑張りたい」と抱負を語っていました。

表彰式は平成23年11月、東京で開催されたJA助けあい組織全国交流会・JA健康寿命100歳サミットで行われました。



がんばったで賞を受賞した「ヘルシーアラフォー弁当」

JA阿蘇女性部久木野支部に
「フレッシュミズ」発足



10月28日、女性部久木野支部のフレッシュミズ（今村雅美代表）の発足式が行われ、同支部のフレッシュミズ部員や関係者約20人が参加しました。

このフレッシュミズの立ち上げはJA阿蘇では4番目となり、女性部の次世代を担う組織として期待されています。今回、久木野支部は4人で立ち上げを行い、今後、部員確保に努めていく予定です。工藤保雄組合長も「若い力を結集し、地元へ元気を与えてほしい」とエールを送っていました。

当日は発足式後、料理教室が開催され、参加した部員らは「料理も美味しくできて良かった」と話していました。同組織では今後、様々な活動を通して交流の場を増やしていく計画です。

（写真＝フレッシュミズ久木野支部発足式）

■JA阿蘇中部地区 県内先頭を切りイチゴ初出荷



イチゴの検査をする職員

阿蘇町野菜集荷場では平成23年10月21日から、県内先頭を切り高冷イチゴの出荷が始まりました。2011年度の作付面積は13haで、「さがほのか」「紅ほっぺ」を中心に8月下旬から定植が始まり、天候にも恵まれ順調に生育してきました。

JA阿蘇の中でも上位の作付面積を誇る特産高冷イチゴは、寒暖の差があるため肥培管理に難しい点がありますが、抜群の玉肥大を見て販売担当の古閑誠幸職員は「食味も申し分ないし、自信を持って販売していきたい!!」と話しています。

出荷は、6月下旬まで予定されています。

■品質向上・収量アップを第一に 中部イチゴ部会出荷査定会



あいさつをする山本誠也部会長

中部イチゴ部会は11月11日、阿蘇市で2011年度産イチゴ出荷査定会を開き、生産者や行政・市場・JA関係者ら約70人が出席しました。

山本誠也部会長は「生産者全員が中部イチゴに誇りを持ち、良識ある行動とつて頂きたい。JAには品質・検査体制の強化をとってもらい、強い自信を持って検査してもらいたい」とあいさつしました。

今年度重点事項として、有利販売を行い銘柄産地として認知されることを目指し、品質・収量アップを第一として、高品質生産管理を徹底することを確認しました。また、生育状況報告や出荷規格説明なども行われました。

今年度は「さがほのか」「紅ほっぺ」の

2品種を栽培し、作付面積は13ha(前年比97%)、生産者53人(同96%)、出荷数量170万パック(1パック300g)、5億1000万円の販売金額を見込んでいます。

■阿蘇イチゴの品質向上を目標に 細やかな対応できる産地作りを 南部イチゴ部会査定会

南部イチゴ部会(島田豊部会長)では11月17日、生産者ら約50人が出席し2011年度産出荷査定会を南阿蘇村で行いました。島田部会長は「昨年に引き続き消費地へ細やかな対応ができる産地作りを目指し、常に品質向上、阿蘇イチゴのファン作りに取り組みしていきたい」と力強くあいさつしました。

査定会では「品種特性を生かした販売環境の整備」等、4つの販売基本方針を打ち出しました。

生産者からは「詰め方の個人格差が大きいので、同じ品物を安定して提供できるようにしたい」という意見もあり、担当職員がプロジェクターを使用し、現在の生



写真上=挨拶する島田部会長、
写真下=出荷基準について説明する職員

育概況や商品価値の低い詰め方等についての説明を行いました。同部会では4年前より、生産者少数の生産部会として他産地に負けない販売ができないかと、12月に役員が市場視察を兼ねて産地研修を行っており、レギュラー詰め(300g)を主軸とし、様々な出荷形態を取り入れ、特徴のある販売展開をしています。また担当の後藤真智職員は「消費地の情報を正確に伝えたいし、産地からの情報も精度の高いものを発信していきたい」と話しています。

今年度は生産者21人(昨年比87%)、作付面積は3.9ha(同95%)、品種構成「さがほのか」約75%、「紅ほっぺ」約25%。販売目標は出荷数量4万7500パック、販売金額1億4500万円、目標パック当たり販売単価を305円としています。

大豆「フクユタカ」の初検査 例年に比べ、高い大粒比率



J A阿蘇では11月28日、阿蘇市の小里倉庫前で生産者・農産物検査員・JA関係者ら10人が出席し、2011年産大豆初検査を行いました。

当日は、主要品種である「フクユタカ」が536袋（1袋/30kg）検査され、おおむね1等でした。11年の生育状況は天候に不安がありましたが、例年に比べ大粒比率が高い状況となりました。生産者の岩下繁成さんは「乾燥・調整をしつかりして、上位等級を目指したい」と抱負を話していました。

J A阿蘇管内では現在60組織で402haが栽培され、出荷予約数量は2万袋となっています。

（写真上）真剣な表情で検査するJA職員



水土里ネット阿蘇が「パートナーシップ賞」を受賞



（社）地域環境資源センター主催による「平成23年度田圃自然再生活動コンクール」で、水土里ネット阿蘇（阿蘇土地改良区）が「パートナーシップ賞」を受賞しました。

これは農業・農村の持つ多面的機能を十分に発揮し、魅力ある農村づくりを行うため、農業者や地域住民、NPOなどが連携し自然環境の保全・再生活動に取り組んでいる優良な団体を表彰するもので、平成15年度から農水省や環境省などが連携し行っています。今年度は全国28都道府県から52団体が応募し、優れた活動に取り組んでいる7団体が表彰されました。

水土里ネット阿蘇は自然環境保全

園児らが勤労感謝の日を前に JA職員に「ありがとう」

勤労感謝の日を前に、阿蘇市立山田保育園の園児43人が11月22日、JA阿蘇営農部を訪れ、職員に「いつもお仕事ご苦労様です」と感謝の言葉を唱和しました。園児らの感謝の言葉に職員は

活動のコーディネートや大規模清掃活動の実施、阿蘇谷へのツルの越冬誘致計画や生きもの調査など、農業を基本としつつ阿蘇の大自然の保全・再生活動を実施。地域住民の先導役となって、農林業団体や行政・教育機関や観光協会・ボランティア団体との協働した活動を行っており、多様な主体が連携した取り組みが評価されました。

水土里ネット阿蘇の本田二男理事長は「今後も活動団体や関係者への情報提供等の支援や、地域住民へ広く生物多様性や自然環境の保全・再生への理解を深めていく活動を展開し、地域の発展に貢献したい」と受賞の喜びを話していました。

表彰式は平成23年10月23日、千葉県

の東京理科大学で行われました。
（写真上）表彰を受けた各団体の代表者、前列右が本田理事長

目を細めて聞き入っていました。さらに園児らは、職員に牛乳パックを利用したペン立てとシクラメンの花を贈りました。受け取った職員は「とても元気づけられました。園児の皆さんは風邪を引かないようにいっぱいご飯を食べてください」とお礼を述べていました。



↑写真上=営農部を訪れた山田保育園の園児ら

写真右=職員にシクラメンを贈る園児の代表→

「JA事業の一環として実施」
料理や子育ての話で盛り上がる



参加者したお母さんと子どもたち

若いお母さんたちと妊婦さんに健康管理を学んでもらおうと、JA阿蘇は11月15日、南阿蘇村の長陽保健センターで「ベビー・マミー」とマタニティー健康教室を開き、JA阿蘇南部地区の妊婦さんやお母さんとその子供ら18人が参加しました。同教室はJA子育て事業の一環で行われたもので、JA阿蘇では初めて開催です。

講師の経済連施設生活部次長の麻生せいこさんと栄養管理士の藤岡里美さんは、地元の食材を使った体を冷やさない郷土料理や、簡単に作れる健康離乳食の作り方の指導を行いました。マタニティーピクスとベビー・マミー

ピクスでは、B・Smileeの黒木千代子さんと吉武千鶴さんが軽快な音楽に合わせて体操を指導。教室にはお母さんと赤ちゃんの笑い声がいっぱい広がりました。

昼食には料理教室で作った料理を参加者全員で試食し、料理の感想や子育てについての話題で盛り上がりました。参加したお母さんからは「いろんな話を聞くことができて参考になりました。子供と体を動かせてとても楽しかったです」と笑顔で話していました。

**地元の食材を生かして
女性部が正月料理講習会**

JA阿蘇女性部の白水・長陽・久木野3支部は11月18日、南阿蘇村で部員20人が参加し正月料理講習会を行いました。

この料理講習会は、部員同士の交流を深めるため夏と冬の年2回行っています。今回は年末ということで正月のおせち料理となりました。食材には地元野菜が使われ、担当した職員は「この講習会で腕に磨きをかけ、お正月に向けてしっかり準備してほしい」と話していました。

参加した部員からは「全体的に彩りが良くてできた」とか、「今日は失敗したが、



写真上＝講師の説明に耳を傾ける参加者



家でもう一度挑戦してみたい」など感想が聞かれました。今後、3支部では郷土料理教室なども開いていきたいと抱負を語っていました。



昼食は料理教室で作った健康離乳食(左上)と郷土料理



写真上＝完成したおせち料理
写真下＝参加した部員のみなさん

多くの来場者で賑わう
JA阿蘇「小国郷収穫感謝祭」



収穫祭の盛況を折念しての鎮割

JA阿蘇小国郷中央支所の野菜集荷場で11月5日、第10回収穫感謝祭が開かれ、農産物販売のほか多彩なイベントが繰り広げられ約600人の来場者で賑わいました。

会場ではJA職員による各種バザーや青年部・女性部・生産部会によるおにぎりや米粉うどん、あか牛焼肉の販売コーナーなど多数が設けられ、大勢の客が押し寄せ、長蛇の列ができていました。特設ステージでは、元H20の中沢聖司さんによるコンサートを始め、和太鼓演奏や女性部によるスコップ三味線などが披露され、会場からは終始大きな拍手や歓声が沸き上がっていました。



多彩なイベントが
盛り上げられた
小国郷「収穫感謝祭」



JA阿蘇のブース大盛況 「2011くまもと農業フェア」

JA阿蘇管農部は11月12・13日、合志市の県農業公園「カントリーパーク」で開かれた「2011くまもと農業フェア」に参加しました。

ブースでは西原産の甘藷を使った「も天・焼き芋」、小国郷からジャージー牛の乳製品、旬の野菜などの販売が行われました。同日とも天候が良かったこともあり、入場も多く大盛況のうちに完売しました。

会場ではJA女性部が作った千人輪が振る舞われ、1杯100円という安さに大行列ができ、すぐに完売しました。また、女性部は「農の生花」を展示

し、阿蘇の風景をイメージした雄大な作品に次々とお客さんが立ち止まり、見入っていました。

ステージイベントには青年部が出演し、南阿蘇村に伝わる「岩戸神楽」を披露し、その舞姿に観客は魅了されていました。

同フェアは県内産の農畜産物や加工品を県民へ広く紹介し、生産者と消費者の交流を深めようと毎年開かれています。



行列ができたJA阿蘇ブース



JA阿蘇女性部作成の「農の生花」



女性部フォーラムで「ちやぐりん感想文」を発表した
(写真左から)中山さつきさん、園田桃子さん、遠藤正士君

『地雷を探す犬たち』を読んで

阿蘇市立山田小4年 遠藤 正士

ちやぐりんの中の『地雷を探す犬たち』を読んで、ぼくは金属探知機で地雷を探すと
言う方法は知っていたけど、犬で探すと
言う方法は知りませんでした。

地雷を探す為に訓練をされている犬た
ちがいる事も知りませんでした。世界には
まだ地雷が埋まっている国がたくさんあ
ってどこまで埋まっているかわからない
ので自由に移動することが出来ないから
とても不便だと思います。

まだ、平和じゃなくて食料も少なく、
水もきれいなじゃなくて、泥水などを飲ん
でいて、まともな生活が出来ない地獄み
たいな日々を過ごしている人。また、戦争
をしている国。足や手が無い人も戦争や

おそろしい兵器によって失った人も多
いと思えました。そんな人を増やさないよう
に活動している人や犬は毎日毎日、地面に
埋まっている地雷や不発弾を一生懸命探
しています。そんな人たちが、いないとい
けないこの世の中は、まだまだ平和じゃあ
りません。世界の人が助け合って、1
人でも多く・1つでも多く・1秒でも早く
地雷がなくなればいいと思いました。

ぼくは、この本を読み始めたとき、とて
も心配なことがありました。それは、犬の
ハンドラーが事故にあわないのかです。読
んでいくうちに、『犬の探知能力はとて
高くカンボジアで犬が地雷を見落として
事故にあったことは、1度もないそうです。』
と書いてあったから安心しました。

世界には、もっと人々の助けが必要とし
ている国もたくさんあると思います。ぼく
も、そっとういふ人の為に来ることは何かな
いか探して、それを実行して平和な世界に
したいです。ぼくは、もっと努力して平和
にしたいです。

『感謝の言葉』を読んで

阿蘇市立中道小4年 園田 桃子

わたしは、『ちやぐりん』を読んで、練香
花火の作り方やマンガがあつてとてもお
もしろかったです。その中で心に残ったも
のは、『そこちから』と言うストーリーです。

主人公のあやは家で牛を飼っていて、そ
の牛が食べる乾草をほぐしている時に大

きな地震にあいました。私の家でも馬を飼
っているので、餌やりのときいきなり地震
がきたら怖いだろうなと思えました。東北
の人もそういう気持ちだとわかりました。

そして、あやは家に入ってみると割れた
花瓶や本が散らばっていました。テレビも
電話も水も今までどおりは動きません。な
のでお母さんとあやは、山の水をくみに行
きました。あやは、がんばらなくちゃと思
います。でも、これからどうなっちゃうん
だろうと心細くなります。するとお父さん
は、『明日みんなで直売所をひらくぞ!』と、
大きな声で言います。やっぱりお父さんは、
頼りになって勇氣があると思います。母さ
んが心配そうな声で、『こんな状況で出来
るのかしら!』と言うと、『お父さんは、でき
る!! 農家にはそこちからがあるんだぞ!』
といました。あやは、『そこちからって何?』
聞くとお父さんは、『いざと言う時に出る
強い力だよ』と教えてくれました。私は、今
こそそこちからを出すときたと思いまし
た。あやも、そういう気持ちだったと思い
ます。

次の日、あやはトラックに乗って直売所
に向かいました。お母さんは、大釜でこは
んを炊き、おにぎりを作ります。おにぎり
を運ぶあやの目の前に、次々と手が伸びま
す。あやは、疲れたと思います。そして、最
後に1人のおばあさんが残りました。おば
あさんは、うれしそうに目を細め、あやの
手をにぎりました。そして、おばあさんは
『ありがとう。農家はそこちからがあるね』

と言うと、野菜やおにぎりが入った袋を大
事そうにかかえ、帰っていききました。あや
の体からは、疲れが吹き飛びました。私も
手伝いをした後、あやが『や、がんばっ
たね』と言われると、とてもうれしくなり
ます。家に帰った後あやは、ぎゅっとこぶ
しをにぎって、『そこちからがわいてくるの
を感じていました。』

私は、とてもいい話だと思います。私の
中にも『そこちから』があるのかなと思
います。最後に一言、言います。東北のみな
さん、がんばって下さい。心から応援して
います。

『命のゆりかごサンゴ礁』を読んで

高森町立高森中央小4年 中山 さつき

私はサンゴ礁の記事を読んで、いつも7
月に沖縄に行ったことを思い出します。

私は、沖縄でダイビングをして、記事の
写真と同じ様なものを見ました。ルイスズ
メダイや、クマノミ、シャコ貝等の生物も
いて、まるで天然水族館のように賑やかで
した。サンゴには、いろんな種類があつて、
よく見る木の枝の様なものから、脳みそ型
や卵型等ユニークなサンゴもあつて、サン
ゴ礁が海の美術館にも見えました。

ダイビング中に生きたサンゴを拾って、
ホテルに持ち帰りました。しばらくしたら、
サンゴから魚の腐った様な臭いがし始め、
そのうち部屋がサンゴの臭いでいっぱい
になってしまいました。あまりに臭かった

ので、これを持って飛行機には乗れないと
悪い、ホテルのベランダに放置して、その
まま熊本に帰ってしまいました。

「あのサンゴも生きていたのに、ごめん
ね…」と、おいてきぼりのサンゴが、かわい
そうになりました。記事を見て、なぜサン
ゴが腐ったのがよくわかりました。

今、美しいサンゴ礁の約半分が消えつつ
あります。温暖化によるサンゴの白化や、
サンゴを餌にするオニヒトデの海の汚染
による、大発生等の大問題が起きています。
こうしてサンゴが減っていくと、サンゴ礁
に住んでいた魚たちまでもが消えてしま
うのです。この記事を読んで、海の生態系
を守るためにも、サンゴの事を良く考える
べきだと、改めて知りました。

沖縄の美ら水族館に行った時、イルカや
ウミガメが海に捨てられたゴミばかり食
べて栄養が足りなくなっても何も食べれ
ず、そのまま死んでしまったと書かれた板
と、ゴミが沢山つまったイルカの胃袋が展
示されていました。私たち人間は気づかな
いうちにこんなにもひどいことをしてい
るのかとショックを受けました。

こんな悲惨な生物たちを減らすために、
私は落ちていたゴミを拾ったり、海にゴミ
を捨てないでと呼びかけたいと思います。
そして、大人になったらダイバーの免許を
取って、サンゴを植えたり、海に沈んでい
るゴミを拾ったり、いろいろな活動をした
いです。

1の宮マリンスが初優勝 JA阿蘇学童わんぱく野球大会

第5回JA阿蘇旗争奪学童
わんぱく軟式野球大会が10月
15日、一の宮総合運動公園で開
かれ、阿蘇郡市の小学生で構成
する8チーム140人が参加
し熱戦を繰り広げました。同大
会は組合員・地域住民が住みな
れた地域で健康で安
心して暮らせる豊か
な地域社会・環境づ
くりに貢献するため
の社会貢献活動の一
環として行われてい
ます。

決勝では一の宮マ
リンスと阿蘇ドリー
ムズが対戦、試合の
結果4対1で一の宮
マリンスが初優勝を
果たしました。



優勝した一の宮マリンス



準優勝の阿蘇ドリームズ



「まるごとあそび学校」活動だより!

■第3回目=雨で稲刈りできず料理教室に変更



稲刈り予定だった田んぼで稲の観察をするあそび子

10月22日、3回目の「まるごとあそび学校」が開かれました。今回は開校式で田植えしたもち米の稲刈りを行う予定でしたが、雨天のため、急きょ料理教室とレクリエーションに変更となりました。

料理教室では、果物を一口サイズに切り分けゼリーの素を流し込んだフルーツゼリーや、牛乳・卵・砂糖・ゼラチンを煮込んで作るプリンに挑戦しました。レクリエーションではお米に関する「〇×クイズ」などで盛り上がりました。

その後、稲刈りをする予定だった田んぼに移動して稲の観察を行い、黄金色に実ったもち米を見てあそび子らは「稲刈りをしたかったね…」と、残念がっていました。昼食にはバーベキューが行われ、料理教室で作ったデザートも全員に配られました。あそび子らは「稲刈りはできなかったけれど、みんなで作ったプリンはとてもおいしかった」と元気に話していました。

真剣な表情で
フルーツ
ゼリー作り



自慢の凧が
できました!



みんなで食べる昼食は
ハッピー!



プリン作りも
がんばりました!!



バーベキューでランチ
家で食べるより断然うまいネ!



添加物から
オレンジジュース!

■第4回目=バターや凧作りと食品添加物勉強会



第4回まるごとあそび学校に参加したお友だち

11月19日、4回目の「まるごとあそび学校」ではバターや生キャラメル、凧作りのほか、食品添加物の勉強会をしました。生キャラメル作りでは、原料を銅製の大きなべで煮詰めました。あそび子らはキャラメルが焦げないように一生懸命かき混ぜました。試食したあそび子らは「甘〜い、おいしい〜」と歓声を上げていました。凧作りでは、真っ白い凧にそれぞれ自由に絵を描いてもらいました。あそび子らは、できあがった絵を互いに自慢し合っていました。食品添加物の勉強会では、経済連施設生活部次長の麻生せい子さんを講師に、国産大豆と外国産大豆からできた豆腐の食べ比べや、食品添加物の怖さを学んだり、添加物でオレンジジュース作りの実験をしました。



焦げないように
注意しながら
生キャラメル作り

バター作りを体験中★



理事会・監事会報告

- 3) 平成23年度上期決算事務監事監査事務手続きについて
- 4) その他
4. 閉会

●平成23年度第10回監事会

日時 平成23年11月28日(月)午後1時30分
場所 本所2階第1会議室

1. 開会
2. 挨拶
3. 議題
1) 平成23年度米麦等標印監査回答書について
2) 平成23年度上期決算事務監事監査報告書(案)について
3) 平成23年度導入家畜等標印監事監査実施(案)について
4) その他
4. 閉会

■平成23年度第10回理事会

日時 平成23年10月28日午後1時30分
場所 一の宮中央支所会議室

1. 開会
2. 組合長挨拶
3. 協議事項
平成23年度上期決算実績報告について
1) 農作業安全委員会設置要領(案)について
2) 阿蘇市の施設における指定管理者の更新について
3) プリペイドカード未使用発行残高に対する
供託金増額について
4) 貸出金について

報告事項

- 1) 平成23年度上半期内部監査実施報告書について
- 2) 2011年JA阿蘇総合展示会実施要領について
- 3) JA阿蘇活動総合3カ年計画の23年9月末
進捗状況について
- 4) 平成23年度JA阿蘇不祥事未然防止のための
行動計画の23年9月末進捗状況について
- 5) 平成23年度JA阿蘇コンプライアンス・プログラムの
進捗状況について(9月末)
- 6) 組合員の加入及び脱退の状況について
- 7) 電化製品等の業務提携について
- 8) TPP交渉参加反対総決起集会について
4. 閉会

■平成23年度第11回理事会

日時 平成23年11月29日午後1時30分
場所 一の宮中央支所会議室

1. 開会
2. 組合長挨拶
3. 協議事項
委員会報告(経済専門委員会)
10月本実績について
1) 貸出金について
2) 畜産近代化リース事業借受申請について
3) 職員年末賞与支給について
- 報告事項
1) 平成23年度共済推進実績(直近)について
2) 役員研修について
3) 23年度総合展示会実績について
4) ハウスリース事業に伴う出資金の経過報告について
5) ナス苗補償報告について
4. 閉会

●平成23年度第9回監事会

日時 平成23年10月20日(木)午後1時30分
場所 本所2階第2会議室

1. 開会
2. 挨拶
3. 議題
1) 平成23年度米麦等標印監査回答書について
2) 平成23年度上期内部監査実施報告書について



「お城巡りをしてみたい♡」

営農部営農企画課 高村 雪乃
庶務係 タカムラ ユキノ
(昭和63年10月生まれ=23歳)



入組して9か月、現在営農部の営農企画課で働いています。「まだまだ覚えることがたくさんあって苦勞しています」という高村さん。休日にはよく友達や家族とドライブに行ったりしてリフレッシュしているそうです。

お城めぐりをしてみたいという高村さんは、実は歴史が大好きで、家のいたる所に歴史に関する本が置いてあるとか。(いわゆる歴女ってやつですかね…)

学生時代はバドミントンや弓道、吹奏楽と色々な事にチャレンジし、大学では中国語サークルに所属。中国語スピーチコンテスト熊本県大会では敢闘賞を受賞したこともあるそうです。初任給では母親に高級な(?)化粧品をプレゼントしたという高村さん。今度は旅行をプレゼントしようと考えているそうです。

理想の男性のタイプは金城武さん。理由は戦国武将のように男らしいところが好きという、どこまでも歴女な高村さんでした。

23年産米販売環境及び追加金の支払について

1:販売環境

①作況指数(10月15日現在、農林水産省調べ)

全国作況指数101「平年並み」、10a当りの予想収穫量は533kg、熊本県全体の作況指数101「平年並み」、予想収穫量519kg、阿蘇地域作況指数95「やや不良」予想収穫量483kgの見通し。主食用米の全国収穫量は813万4千トン、内熊本県19万3千6百トンが見込まれる。

②23年産米需給見通し(全農予測)

23年10月15日時点の全国の作柄・作付面積等に基づく23年産米の24年10月末在庫は23万トンになると予測されている。

③販売環境整備米の取扱い

本年7月以降、飼料用米への販売が凍結されていたが、需要に対し十分な供給量が確保できる見通しとなり、JAグループとしては、今後、国の政策をふまえて飼料用米等への販売を再開していく。

④放射性物質検査の状況

埼玉県を除く16都県の本調査が終了し、放射性セシウムが福島県で1件検出されたものの、その他の本調査では「検出せず(ND)」との公表がなされた。しかし本調査終了後に福島県において暫定規制値を大幅に上回る物が検出されたことにより検出された地域の出荷停止措置が発動され、今後も調査区域の見直し等の必要性が出てきた。

⑤暫定規制値の見直しの動き

10月31日に開催された食品衛生分科会において、厚生省から食品の放射性物質の暫定規制値見直しへ向けての考え方が示された。現行の暫定規制値は5ミリシーベルトを年間被ばく許容量として算定されているが、年間1ミリシーベルトを基本に考え方が示されていることから、新基準は非常に厳しい水準となる事が想定されている。

2:相対基準価格について

①相対基準価格の考え方について

年間を通じての需給環境は供給過剰が想定されるものの、放射性物質調査結果に対する風評被害や消費者意識が見逃せないこと、食品の放射性物質の暫定規制値見直しに向けた考え方が示された事等から、価格設定については動向を注視しつつ機動的に対応する必要がある。

②販売価格の設定

販売環境は先行き不透明な状況であることから、しばらく情勢を見極める必要がある。よって、しばらくは現状の相対基準価格を維持する。

現行相対基準価格	コシヒカリ	15,800円
	ヒノヒカリ	14,800円

3:追加金の支払について

現状の相対基準価格を維持し未契約分の早期販売を目指し、現行販売価格を基に最低平均価格と思われる販売価格で試算し、全うるち銘柄 等級間格差無しの同額で12月末に追加金を支払いました。

追加金 1,020円/60kg

※23年産米仮渡金(内金+追加金) 特裁コシヒカリ1等の場合 13,020(内金)+1,020(追加金)=14,040円

退職者表彰「永きにわたりご苦労様でした」

JA阿蘇は10月18日、平成23年9月30日で定年退職された蔵原鈴子さんの表彰式を本所で行いました。岩下常務から蔵原さんへ感謝状と記念品が贈られ、永きにわたりJA職員として組合運営に貢献された功績をたたえ、その労をねぎらいました。

蔵原さんは「今まで駆け足での生活だったので、今後はゆっくりと時間を過ごすスローライフを楽しみたい」と話していました。



2011

JA貯金

うまかもん キャンペーン

平成23年

平成24年

期間 11月1日火～1月31日火



JA貯金でスマイル。

熊本の
うまかもんを
ゲットしよう
!!



JAの商品券3,000円分を
県下で1,200名様に抽選でプレゼント!!

※当選者への通知をもって、発表にかえさせていただきます。



商品券はファーマーズマーケットやEコマース等でご利用できます。

※一部利用できない店舗もございます。詳しくは店舗もしくはJAへお問い合わせ下さい。

対象商品 定期貯金10万円以上(期間1年以上)の新規ご契約もしくは増額書替えの個人のお客様

- ・期間中に対象商品ご契約のお客様に10万円(増額書替えの場合は増額金額)を1口として抽選券を1枚お選します。
- ・また、JAカードご契約の方、給与・年金をJAでお受取りになられている方(これからお申込みいただける方を含む)へはさらに抽選券を1枚お贈りします。
- ※期間内であっても、抽選券がなくなり次第、キャンペーンは終了とさせていただきます。
- ※抽選日時時点で、中途解約をされている場合は、お持ちの抽選券は無効となります。 ※当選商品は現金との引き換えはできません。

詳しくは店舗またはHPでご確認ください

クミアプロパンでは、 太陽光発電のご紹介をしています。

あなたのライフスタイルに合ったエネルギー
「太陽光発電+LPガス」を考えてみませんか。

電気とガス使い分け 上手に賢く節電

家庭の電気は太陽光で
(家電製品・電灯等)

余った電気→売電

家庭の生活エネルギーは
ガスで台所・風呂・暖房



更に LPガス クミアプロパンは安全・安心 あんしんキャッチ24



※広域圏外には有線タイプと無線タイプの2種類があります。

「太陽光発電+LPガス」Q&A

Q1:太陽光発電の設置費用はいくら位かかりますか？

A1:1kw当たり55万円～60万円(平均57万円) 熊本の平均は4.4kw
4kw設置の場合……4kw×57万円⇒228万円
補助金:24.2万円……4kw×4.8万円(国の補助)+5万円(県の補助)
228万円-24.2万円⇒203.8万円

※取付一面工事で電気工事が一般的な場合

国の補助
1kwあたり

4.8万円

熊本県の補助

一律5.0万円

平成23年度
売電価格

42円/kwh

別注:市町村からの補助金も受けられる場合もあります。

Q2:オール電化に対するLPガスの優位性はなんですか？

A2:災害時の復旧が早く、停電時でもガスコンロが使えます。
CO₂の排出も少なく環境にやさしいエネルギーです。

Q3:ガスは安全なのかしら？

A3:当社では、電話回線・携帯電話網を利用したあんしんキャッチ24が
24時間体制で、お急ぎに異常をお知らせします。

あんしんキャッチ24の特徴

- 1.ガス漏れをすばやくキャッチし、ガスを遮断する事で事故を未然に防止します。
- 2.一定時間を経てガスが抜い切れた場合にはセンターより安全確認を行いますので漏れ忘れの弊も安心です。
- 3.LPガスの残量を自動的に管理しているのでガス切れの心配がありません。

※JA・例エコーコープ熊本が、太陽光発電の見積を無料でのご提案致します。
その他、新築工事・住宅のリフォーム工事等の相談も受け付けます。

お気軽にお問い合わせください。

JA・JA熊本経済連

熊本クミアプロパン株式会社

本社/〒860-0831 熊本市八木町2-10

TEL.096-373-2010 FAX.096-373-2024

http://www.jakk.or.jp/kumipro/



担当